今様案義奴

82 江

3869
48

今採集義奴

四

へ利9
3869
48

東きぬの色揚揉八重に君紙
さいとの葉乃隆丈にしきを
おりあ為ぬ屋ゝ四の巻ゝおり
ぬれゝさの多し指き意せもやう
和の花の其さいもを書と
加せゝ重の古ゝもゝつゝ生ゝく

特
へ利 9
號 3369
卷 48

大正七年三月吉辰
室井平藏氏贈

匹しの出雲さ山の峯の下深あや
はちを流るみ那也

文久三癸亥
夷則八月

快豊真子

今様東京四編　初舎　甘月百年老

折句題　ヨリ　ニ

お國海波りの源氏名ゑ二庄の人　遊歩
お近ひ芳ゑほんやりと二階の旭　仝
大輝男し立治子狂ふ白　仝
お職風流樂語も寄る紗深　芸葉
お桃子ゆりゑ者も椿へ逆て風　仝
笄を手ゑ学達の矛山を下る松　仝
浮寺詠りゑお七見て暮る芝　猪里
お下タを作りも一つの雲ゑる日ゑ誠　弥志

歯くもゑりと高竜の二階母　弥志
お猫の付りまるも水菓屋くり附　仝
打まる丸しやりと出んも四者氷て　八ツ子栗永
面白しー寮よ雪見の肉蒲茶　五の字五丈人
遅く来寮泊りかけまる芝居　生業

打白頭　コモシト

子八紅底帽子ふいや老ふる古の智恵　茶咲
小去のは解も佛乃よ壷かを茶　逸生
六つ拾りとをく柿月を思ふ枝　茶咲
小敏も猿る　縮酒よ年のるみ　生業

夢ちれうとしやと部屋に遠書駕
五速無拍お茶をおろしてハ湯
猫楽もお拍おぴしと生ン素生
子八脊中をつらかゆい丸人　を
市都立寮も撫る祝ひの仕立物
巨燈よ鞍り才一ッ成志の八　約
殺しー場思ひ出ふ寮味提更て
子の脊みまり猫ふ子代の書を松茶
打白頭　ツハモ
書うかり明しふ蕉浪苦の角

官戸玉鮮　八ツ子青中　弥志
逸生　栗永　玉鮮　叶窓　志咲
茶咲

書表紙に古時代末弥生の
書兼紙時代て様に黄ふ紙
畫形る目張り弟紙筋紙張て
次くに白旗母へ雲の物語り
書母ふる紙に一物求さ苦

冠頭　押

押古代軍船に附ケ荒い縞紙ひ
押て買ふ指の目利きを指の紙
押おしと漢字に書る宝
押スを一ト晩様太鼓畫の藤

遠坐
弥志
京八
実朱
徳利
筆キ
玉鬘
官庫
七宝

押迎んと思ふよる煙管筒
押出免八色母蜆の出る筆法首

冠頭　寄

寄る寄も時母義の彩畫
寄合り寄八畫くおして畫
寄居出ふ〳〵る多冷て形む教
寄ふも見相紙ひの形りて書い謡
寄物に出る望ロ寄と母張痛
形迎頭　承合

合世物軍も事厚ひ見遠のロ

京八
中八
実朱
義
徳利
筆キ
実菜
仝
筆キ
実咲
徳利
義
弥志

嫁行を変て後の建合せ　宝葉

おし横向く合扇の枝丹へ手　景峡

罷帝崖の筆ほどくもこの合猫　仝

母の手蒼る合紙ゆ孫る舟　七魁

玉文字題　雪と墨

殿中扇を亂がる冷ひ　京ハシ白雪

張板への目貫が光り　徳利主一鶴

隅田川の水が躍り　京ハシ円楽

芥みを掃て都角を清免　宝葉

為ゆ成る数へを夢ひ　仝

古郷のむよ昔を思ひ　仝

孫を弟を十月を兎と免　孫志

朔日の蒼汐ゆ向ひ　樽主鶴袋

変むけがきると振おしを吞　徳利主八笑

琴を調らへて肩が張ゝ　道生

釜が換十て湯釜が騒き　徳利主七香

玉文字題　玉よ祇

駒下袴の蒼が伸るひ　玉鮮

羽衣へ雲が加ゝ　宮戸主梅函

古ひ鶴をちよひりやうゝ　宝葉

大福を余而のゑ小巻り　仝
お嬢さん神　ゑ様さ　為蔵
五文字　五色の器
嫁も御身ゑ小　三味線を恥　芙蓉
勢も深く孝子が発起き　仝
深さもゑが祝ひり　仝
為上りり月が踊り　仝
ゑのるる玉が　ゑを張く引　仝
幸いものハ弦搗と　蓉　京八分　蓉芳
美い瓦頭が　ぬけて仕舞　仝

筆紙附て人見を使ひ　鈴志
掛麿殺しが　峠み踊り　猪里
五文字頭　五色の器　芙
刻がいよと地色を稼ぎ　芙蓉
舵で流ずりと高尾を切て　仝
助兵衛ざとる佐み踊られ　菊芳
天未蓉が火入み煙り　七変
嗚て強いと為勢を蓉　円楽
笑ひ物を手ゑ玉み巻ひ　一笑
去ゑで巻て蓉を仕舞　和好

打句題　フウイ　次会　城月十四日平壱

ゆうたちと春衣法むり〳〵向ふ風　一笑

文壇〳〵梅が香の来る春濤り　梅乃

不言を打梅凡の雪〳〵菴も春麦　八千日　深波

材〆の落粕霜の一胴一厂り　日　可祝

薯蕷菓稿引ふ肉一條と春乃色　笑菓

たッてふ乳母千代の菓て春る柳　一鶴

蒲団糸て深むむ嵐雪春て名乃　仝

蓋タまの甲で焼ふを入れる指　千成

更ける嫁うつり月日も明つる薯　菓匠

吹雪み風雅樽笠む寄て杖　壱咲

更ける春み東乃月出て降ふ雪　仝

揮ふ春落郷り　玉粉厨ふ梅　笑菓

吹ヶハ恋ふ雪扇乃春ゆる春掃除　筆キ

孫第の財もちよいと嬉ふ口　栗乃

節元坊ハからふりと梅の雪　菓匠

吹井春なお菓春手春用の坊　千成

風菓を半の脊耳見る磯老不　郭川　秋光

ふんと春を梅の小附を厨ふ好春　鶴志

鶯〆井壷打ふ安と市　春り　樽造　秋好

打句題　十二月

七夕　月ハ秋ぶと夜の寒衣　逸雀

蕎らぶ初蕎の山淺葱を彩の帆　春茂

何のう何と蕎の附て嫁の孝　一笑

長刀ハ鎧ふ振も立派な桃　彩川繁瓶

何こ蕎ぶ情ハと鶏り物鎧く赤留古　トキハ鶏　平蔵

名附るを不業肉の出ハ秋俳諧　逸雀

蕎掘ぐさい匂ひハ迫ー漁師町　笑業

七里ヶ浜の鎧ひ浦へ寄る鎧　玉嶋

打句題　ヲモロシ

打ハお仕ハと羽織ハ老ぐ抱て　深波

お上みへ子打鱈をと寄り母　玉魅

お治ゆ寄ふ四ツ乳を洗次の吉　咔窓

卸シ歯と擦ぶて屋る師走洗吉　玉吟

鎧ヵ鶏る蜀の書も除秋の奥　逸雀

初ゝ寄と擦ぶして書仕蕎暦　彩沢松琴

お屋敷ハ寄ふ反ゝしいお嫁　八ツ子書中

奥ゆゝしゝ木樵の垣も晒蕎ゝ蕎　巴川衣業

冠頭　打

打テゝ初ッ買ッ寄も見る百年ー　逸雀

拾誠して和の翌日八潮ぐ眼も陳し　五文人
持ッ斗り足垂と嬉の風も出く　ハツ子　西條
拾ッ葉も亂の巣　孤　池　美　花咲
拾句も流多な源氏名の新原の解　菓壽
拾とて菓を素蓋て仕舞今　ハツ子　菓人
持垂し海せうと西昊球を書　千歳
拾誓る扇蘭　玉も厭ふ醤　紗志
拾ッも能い株福書子寮の室　菓生

冠題

芳　花も今年八蔵を嫁の眉　紗志

芳産も汗も大歓乃夏清陣　八笑
芳の字なるか賀様の昊足榎　子吟
芳垂と知つ書の出を羽織　芳菓
芳へ毛を嫁濂梯も新赤く　栗弄
芳芳の鳴り天井も彩る八新　吾氏
前三度接て樓し斗の名　也雪

打廻題　蓼子

激る俳名蓼ひ玉の徒と繕る筆相　芳菓
子も源氏彩蓼人瓜も面産恩　味窓
蓼ッても見る蓼しを赤へ菓書蓼嗅　也咲

生々八十地物うるまも美ひ水美ひ　生菓
見世の業清も能ひ嫁の人美ひ　仝
美ふ美水何とまく峰陽亭　玉鮮
美ひ物業張る奥も四〻尾　ハツ子 一向
ふ景氣を製女美り羽子の中校　繁瓶
変文字顕　好手み帆
結ひ〻で坂川を立退き　京バシ 松調
人目を忍んで抜つと立退き　旭堂
殿も古郷へ縁を結り　宝峯
お菜更み餅改を出し　吉中

し菓子の奴ッが田舎へやられ　生菓
五文字顕千両〻
貴を記ふ積りで消き合ひ　生菓
押込み雑物を　菓子屋 生米
腰掛乃頃〻を　さぐり　医者
流〻で あるされた水を美ひ　菓子屋 菓雅
五文字顕ルテスル
一九の俳で女も美ひ　菓子屋 松調
市松の左帯と　中ハシ 安義
大廣ラて　屋風を引摺り　ハ丁堀 大辰

花蕚をたゝ輪小切ッ浦ケ　　早吟
秋ゑの短冊と漬上ケ　　丹樂
小間次の腹切り八見物た　　松園
母と恵こゝと使りゐるひ　　芸菓
婦の切レの耳を捜ゑ　　花言
寄ッ雲へた櫛にゞ寄ちち　　工十り

又久三文二月五日発巻

打句題　チサル心　　外窓

長杖の光觸レ具物ゆ名聲人　　策返連
思ひおも廊の昔を待夜書　　策寿
重くゝたをう金入の幕商　　浦志

おちゑ子小梶て却ロてほれお掃宜　　浦志
折をゆ不沙法菓ゐも取吏セて礼　　千寿
おゆひ先さも多姫の心面ゑと面ゑ　　五嘘

打句題　ミヨコソ

見て夢ゑ嫁小彼岸と鷹母　　浦志
緑りこうら樣ゐも松の音テ甲渉反　　芸菓
才樣も嫁小淋吋鷹の爺　　仝
ちゑ見ゑ見ゑ嫁ゑ濃ひ任　　抑好
見ゑ（の嫁ミの紙て今多屠藤　　浦志

打句題　ハムセ

這入口に云云 且那の咲お掠　　錦志
袖梶の梅うるたきも厭ふ庶　　菓舟
化の波別くく手掛もせのれく分　　不曉
初京ふ梅活れ　　一笑
撥を師と雲嵐の顔へせう鶴の百　　逸生
母笑ふ聴し身や居ぶふ多　　千成
初陸奥遠ひの人ふ世るも花　　和光

冠題　清

清し〳〵邪へ青こう見きふ生るも稜　　錦志
清みと思ひ切るるを飛んれ風　　大良

清ノの水と千曲の掠ハ江戸　　錦志

冠題　静

静　しく家紋列こいた呂〳〵　　繁瀧
静さや梅花の肩へ鶯の囊ン　　深波
静小遠ふと甲ふう嫁う名　　生菓

打込題　長久

出代りや久し〳〵振ふる長郎　　吉民
腕久といふ形ふ出る古ま長国　　深波

五文字題　恋の俤

祭り場不へ古仮家を遠　　白鳥

返すも 墨くすりて 硯とし　安茂
世第一知らるがお写名小 書し　黒薬
からんで糸を深くして 夢ひ　硯豊
引き抜と寝へ　抜 図み　女性
米樋へ 鼠が 這入り　白雪

五　文字題 長ひ
嵩の高より 夏と 賛詩ノ　黒薬
河の作り 狂言を 書き　松濤
雪深樋へ 百文 糸引くこと　一雪
類冠りて 掃除掛り　黒薬

八幡 撞へ 代参と きり　白雪
抱て 抱籠と 参詣記　第後恵 第苦
鬼門の 方ハ 抹ふ 掃 丸く

五　文字題 言のスル
雪 説う 撲 湯と 沈り　菓舞
手先の 清らぐ 引合ふ 清き　仝
弓張と 繁で 撞へ　丹樂
立茶 茶碗 撞と 通り　花雪
石を 嵩んで 入嵩 ら 深き　柳好
故の 帝王へ 燭 燭と 立　安茂

素家
詩補　深草百揚

文久三癸亥四月十日発巻

折句題　八十敷

母呵りあらぬ嵐おろす篝る　生葉
花と鶴名残も惜しく立ち御　仝
葉も雪氣ひるの初と秋陵　四ツ谷　早苗
初鶯泣ぬ鹿長ふ賞て　母　いキレ　深波
徒文ぜうあるも寄の頃　五の字　五扇
葉ふもまきて苗ゑるあるも拾ふ秋　綿志
坊ちお澤の子の換ら鶯も湯　初音　茶人

外を庵を内沈鄭ふみ焼亜
初胡瓜流ちも肉の海童の石　五の字　五江
涙江男浪和歌吟ず田鶴の景　生葉
肌ぬやり夏清た茶ゑ鶴の吉　仝
這入た解も井戸碧の側鐘を　茶道　茶頼
拾の鐘蓑〳〵切ま〳〵湧る朝　千成
潜ふ浪別れ〳〵鶴の春　天宗　尼吉
初雨の茶子未と茶ぬ具ぬ癖　女吉人
折句題　シヨウ　仲宗
撞道の画歌の子ふ清ひ内懸り　玉鶴

姑様む嫁 行て我肩の凝り　美菓
亀の肉嫁 和らかい 赤飯（をこわ）　五丈人
志すゝ 肘撫ふ多 弱とうつ耳　一鶴
主彩紙嫁のお赤飯ふ漆の書　早吟
芝原 新嫁 志すゝ の 漆 主　菓飯連 菓舟
清島の漆 仕事と 通 丈ふ　菓人
白蓮や 歌を 歌ひ 新 ゆり　一矢
神ひて 四谷甲馬 小 絵の 船　椿里
絵る 粉ゆ 嫁も 伝ちや ゆゝ 胴 盟　一句
考も 厭ふ 歌 風 島 碧も 主 れ 春　菓壽

ゆる 世 様ふ 春 座 の 波ろ 邪 广
志すゝ 島 絵ひ 清 多 波 蔦 ふ 新
初 食 座 の 様ふ 嫁 し も 蔦 ふ 絵

杉白 題 ユウテウ

ふ八 芝 主と 家 の 清 ん 主と 書 の 娶　錦志
子も 乳 母 ふ 空 清 ふ 書 ふ 書 た い 邪 ト　菓芳
小 船 ゆる 刺 り の 嚊 ふ 書 の 鑑　五暁
清 嫁 ゆ 新 邪 ト へ 嫁 乳 絵 四 む 蔦　仲窓
小 松 の 芝 雪 虎 清 ゆ 射 く 蔦　主菓
子も 寶 人 育 て 早 く お 来 る 樂　全
一矢
ふ夫人
漆波

小姑と添ふ紙くるる射み嫁　芋哺
雛さ晩蕾雲て一下に寒さし　彩川和光
琴の玉似十雲盤も合ふもの　花魁
今手も赤雲の岩蔭み　調な後　床九
るも上八の空塊協小法ふき竿　綿志
腰の拘袖て雛拭く出深嫁　菓城

形句歌　アワリ

隔の手へ流る大姉ふ雲小　煙草　可祝
滝流れ月み涼しき場を四係　生菓
青く豆苗へ梅薗る窯の寂ひ　一鶴

紙な軟雲の妻形み窯の池　生菓
胴疲り連鰹疲を窯の池　逸東
上る月袍を葱も　九ひ影　梅西
足雲れて雲八拒ぬ蕗と拭柳る　女史人
欠ひの移る雲　坊の拭ふを　玉菊
合せ拘月を紙ともみ窯涼し　仝
岩切も潮交延生小母連レて　綿志
青く節の嫁醤り出し掛　八知
足を出を辻石ふて　拭点し　梅西
首順の月　天井へ九切焼　女菓

百番れかん艶打つ玉の能の舞　猿里

打句題　サツヒ

遥さんか掛て九つ子の神へまく　京谷　静子

繻てる三つ尾摺るか遠く飛び市日　早吟

密り鶴に素のお菜屋と花の涼　松雨

響一形ちかゐ寄るる　稈の延び　猿里

清かお八つも実の戸かゐ摘の臺　仝

掛翁訪る沖浪の乾もえて　菓寿

三哲の連、掩かゐ少く、砂蛙　玉鍵

長初の艶や寒書！の無庫番　遠雀

俳かい苑菴を書く　深の百ひ　雀菓

響雪四素元競る　稈も蓉　仝

五月雨清ひる席と這入号載　仝

先へ深ひ素八右ゐ引く時　菓亟連　芳米

打

四題混合

交交元合波蛇貴長も波と先　儲連　可祝

押合ふ場面へ角ト　波れ力足　和好

出ッ波元日除それ今深へり　宮戸連　一葉

廊と波る思菓の姿あ　百合の花　深波

波ふの虎も筆ふ合を首摘ふ　菓寿

十六

宮合矢崎氣も清らぬ二月花見　安茂

折巡題　澤山

庭小山ゑ潤沢な寶位居　芳菓

山住みの巖を洗ふ清き沢　仝

河原澤ゑも冥鶴山清ゑ　一鶴

人影ゑ沢蟹ゑ山情水　遠雲

山菱て落ひ合流ふ四ツ瀬戸　五手人

山芋を連ねて　月形も塔の沢　菓芳

折巡題　石菖

流させる年ゑ人筏ゑ雪の磯　芳菓

年も勇む笠ゑ山乃ゑ身晴　一矢

蓋取るお金湯ゑ厳ふ雪の中　滝波

乃ゑ乃乃拝年の年い五月　一向

冥ふ年寒御香取屋ふ見る書道　大辰

嬉ゝ氣も度変時ゑ五月　五道

冠題　上

上戸尺ゑ山ゑ山ゑお庭の橋　渡　作窓

上流ゑ所ゑ所ゑ山ゑ仮寄不　可祝

上服ゑ年ゑ氣ゑ子の赤飯功太　玉鶴

上ゑ尺ゑ年ゑ嫁ゑ婚　芳菓

上ゝ焼筆と数を尽す画師の書
上ゝ[illegible]の[illegible]を[illegible]陶り　遼　橋　和好
上ハ[illegible]で[illegible]を[illegible]ケ[illegible]書と[illegible]る端々　綿志
上ケ蓋小指一ト口と出[illegible]まだ　蓋　[illegible]川　和光

冠題　中

中宗く半面美人　江戸の宮　竹宗
中二段ふ[illegible]屏風ふ[illegible]く古び　五曉
中[illegible]て[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]も[illegible]と　一向
中打き下を半扨ゝ[illegible]ゝ[illegible]せ　和光
中返ゝ幕切上て　廊　お[illegible]　早吟

中返ゝ[illegible]も[illegible]潔[illegible]と横に　清波
中段平ゝ[illegible]尺ゝく水[illegible]る　月　蓋[illegible]　義城

冠題　下

下ろ[illegible]筆嫁[illegible]書く[illegible]　生ゝ菊
下々の沢[illegible]　[illegible]て友[illegible]れ　榛里
下ゝ[illegible]小[illegible]ゝと[illegible]の葉　菊芳
下カる芝[illegible]光[illegible]の[illegible]虎[illegible]　仝
下早[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　竹宗
下[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]嫁ハふ[illegible]ん[illegible]　清波

五文字題　安心

清盃を呼て家内を百うく
表二ヶ隅田の流し　きだ　千成
ちはけ物が　勤を　急り　松酒
切ッ隠を　昌平り　来り　蒸菓
近江表を　返しう　周ひ　仝
様と　上帯を　返して　仕家　袋
眠うく　鼻へ　京ヶ通し　仝
清　用ハかハ　車　尚ち　藤く
九紋龍の　かをそ　んさ　猿里
も　出ヶ　技売　よ　素利　仝
あ義

国じゃ止で　詞文　ちふ義　うあり　遠恵
五　文字頭　見えるも也
恵ひと　恵くふ　河　て　仕家　生菓
源田の　女を　ち　く　ち　ひ　松酒
巻ぢ　鈴で　焼　対と　やらし　勉仝
清れた　沼へ　河　見世を　ぢし　錦袋
ち　ヶ　切ると　儀と　敢　ん　菓塩蓮　九
抽　干ふ　白く　鈴ヶ　ふ　武　大辰
柳の　枝ヶ　ま　く　金　ま　菓寿
鈴の　手　笑ふ　古　沼ヶと　義ッあち　松連ヶ　洞

白昼 ものして口をふさぐ　第蓮宋
おり 貧小 名長て 咲き　教連三郎

五 文字歌 あさまる

牡丹の花小 鶯ふる 戦き　白雪
城と 花と 九月まがぬ　円楽
森 巻の 作ぐ小使ふ お掛　静子
式 世 仮りと 晩 高ぐ 和尚　芳義
好 ふ 物と お 童子 様ら く　仝
八重の 盛ふ 原様へ出 掛　円楽
明 ふり 咲ら 古 城く 夢 切り　白雪

巖重小 夜 寒 物を 勤め　蕾集
枕と 石 多ら 音 森ぐ 仕て　第寿
芝 小 多 為 房と き い　第人
内 寄て 畫 は ひく 這 ひり　如舞
信 西の 阪 内 ひく 掛り　為義
ち 畫 多 九 常と 人 海 を　老雪
年を ゝ ゝて 子 倍ふ ふ ら ら　第芳

五 文字歌 大坪川

葉 振りの ひ ち 丈 も 老 四 み　芳葉
秀を 上 ろと ろ 紐 ら 掛り　西秀

[illegible]も湯屋の道具さ　深波
風ゝ吹て炉りと身祈く　菓子屋　松涛
近郷無[illegible]庵うさ名をひ　仝
こゝ[illegible]ゝ一ト山掘らゝ　大辰
青ゝ[illegible]と素い暮おど　出来菓
武具を隠して出世を祝ひ　二菓
是庵人の天宗忘ハ嫁ど　菓屋通菓子
又文字題小[illegible]ゝ　立夫人
[illegible]名ひの[illegible]ゝ　出来菓
嫁もあつきり　化粧お掛り

三人一座て おしゝ藤ゝ　松涛
十間 独の 錄ゝ 動き　掛ゝ
伏仏の 押へハ 元ゝて入き　円楽
独ゝ女の 巻中を 変ッつき　出来菓
中ゝ字の 西面と 泣り　菓集
彩[illegible]庵の 裏ハ 淋た　仝
切刎をして 殘河ゝ 雪　[illegible]里
賀の 祝ひの 歌を 湯矢　円楽
法 殺生ハ お目 [illegible]　菓寿
嫁を 到[illegible]く 掲りて 中　藤さ